

# 学習指導案のあり方を考える

桑山 俊昭

私は教壇に立って、授業を始めようとしている。手元の「授業ノート」を開くと、何と白紙。これでは授業ができない。私は頭の中が真っ白になって立ち尽くす。——このような夢にうなされることが、高校の社会科教師を退職してからも時々あった。実際には準備もせずに授業に臨んだことなど一度もないのに、こんな夢を見る。小心者と言われればそのとおりだが、いかに毎時間の授業づくりに追われていたか、「明日の授業ができるか」のプレッシャーが大きかったかということだと思う。

いま教師の仕事が多様化と多忙化を極めているけれど、何がコアの仕事かと言えば、授業（特に教科の授業）であることに疑いはない。少なくとも私はそう考えたい。授業は漫談ではないので、何の計画も準備も資料も用意せずに臨むことはできない。授業づくりのためには、何らかの計画書や設計図や覚書のようなものを作成する。それが私の場合には「授業ノート」であり、一般的には授業案とか学習指導案と呼ばれるものである。

高校の社会科教師を退職後、私は大学の非常勤講師として教科教育法の授業を担当することになった。教科教育法は、単純に言えば「授業づくりのための基礎を学ぶこと」を課題としている。<sup>注</sup> 当然のことながら、学習指導案作成—模擬授業実施—その振り返りは、教科教育法の授業の目玉の一つである。

ところが、世間に流布する数多の学習指導案を見るにつけ、私は「こんなものを作って意味があるのだろうか」「あまりにも中身がない」「これで授業づくりの力がつくのだろうか」との疑問にとらわれた。本稿は、学習指導案の現状に対する疑問を指摘するとともに、学習指導案のあり方についての私見を述べるものである。

---

**注** 教職課程コアカリキュラムは、各教科の指導法の全体目標について、次のように述べている。「当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける」。よく練られた文章である。ただ、学問領域の発展と多様な学習理論は学習指導要領を乗り越えることができるので、学習指導要領の制約を過重に意識するべきではないと思う。

## 1. 学習指導案とは何か

まずは、学習指導案についての概観をしておきたい。

①学習指導案は教育現場で慣用されているもので、法的根拠も定められた様式もない。当たり前のことではあるが、確認しておきたい点である。要は、自由自在に使い勝手が良いように作成すればよいのである。

②学習指導案作成の目的は何か。教師にとっては、授業づくりの準備のため、授業後の振り返りと改善のためということになるだろう。しかし、実際には第3の目的が生まれている。

公開授業や研究授業や模擬授業の参観者に示す資料として作成する場合である。これは他人に見せるための学習指導案であることから、一定の様式と内容に集約されることになる。

③現在の学習指導案は、次のような項目の全部または一部を含むことが多い。「授業の日時・場所・対象者、単元名、単元の目標、単元の評価規準、教材観、生徒観、指導観、単元の指導計画における本時の位置づけ、本時の目標、本時の評価規準、本時の展開、板書計画、使用資料」。私は、「授業の日時・場所・対象者、単元名、単元の目標、単元の中での本時の位置、本時のテーマ、本時の目標、本時の展開、板書計画、使用資料」が示されていれば十分だと考えている。

④「本時の目標」と「本時の展開」の欄が中核であるはずだが、それ以外の部分が重厚になる傾向にある。観点別評価の導入にともなって、また近年の「指導と評価の一体化」の掛け声のもと、評価規準の記述が詳細になっている。「指導と評価の一体化」とは、評価のための評価ではなく、評価を授業改善に生かすという趣旨であると理解している。これは当然のことで、誰しもやっていることだが、ことさら学習指導案に記載を求めると、評価を意識して授業を組み立ててしまう弊害を生む。指導—評価—指導という好循環ならよいのだが、評価—指導—評価という逆転を生みがちである。観点別評価に合わせて授業展開を考えたり、評価規準の欄で無意味な作文をすることになる。

⑤「本時の展開」の欄は、もちろん学習指導案の核心中の核心である。時間配分、学習内容、生徒の学習活動、教師の指導・支援（指導上の留意点）、評価規準（評価方法）などの項目が並び、大抵は表の形式をとっている。学習指導案全体の中で、前置きのような部分が肥大化する一方で、核心部分のこの欄が相対的に軽量化する傾向にあるのではないだろうか。また、生徒の学習活動を教師が指導・支援するという考え方から、生徒の学習活動、教師の指導・支援の順で記載される傾向にある。私は、教師の働きかけからしか授業は始まらないことから、教師の活動を中心に記述すべきだとの素朴な疑問を

持っている。

## 2. 中身のない手順書になっていないか

ここで検討の対象にするのは、各地の教育委員会がサンプルとして示すような中学・高校の社会科公民分野の学習指導案についてである。たとえば神奈川県では、神奈川県教育委員会の管理下に神奈川県立総合教育センターという組織があり、このセンターのHPの学習指導案のページには、いくつかの学習指導案が紹介されている。東京都では東京都教職員研修センター、埼玉県では埼玉県立総合教育センター、大阪府では大阪府教育センターが、同じように学習指導案のサンプルを提供している。これらは教育委員会推奨の学習指導案と受けとめられることから、現場の先生方や教職課程で学ぶ学生たちへの影響力も大きいと考えられる。それらの学習指導案を具体的に検討するなかで、私が問題と考える点を指摘していきたいと思う。紙幅の関係で、個々の学習指導案の引用は「本時の目標」と「本時の展開」の部分のみとする。

### 事例①「よりよい〇〇区をつくるための政策」(単元名「地方自治と私たちの生活」中学校)

〔東京都教職員研修センターHPより〕

この学習指導案を見て、私は唖然とした。授業の手順はわかるが、中身が何もわからない。要は、4人1組のグループで〇〇区をよくするための政策を3つ考えて発表させるという実践である。しかし、どんな政策が出てくることを想定し、それらをどのように整理して、どのようにまとめるつもりなのか、教師の意図が何も見えない。ただ生徒に発表させればよいという実践に見えてしまう。

生徒に「〇〇区をよくするための政策」を考えさせるなら、教師の側に「自分ならどのような政策を提示するか」の突き詰めた煩悶がなければならない。生徒に政策を考えさせるために必要な資料を用意しなければならない。生徒の意見をどのように交通整理するかの見通しがなければならない。それなしに漫然と授業に臨むなら、時間の浪費でしかない。

この学習指導案を見て気づくのは、生徒の学習（教師の指導）の具体的な中身の記述が一切ないことである。「話し合いの中で「効率」と「公正」を意識するように指導する」と書いても、具体的な政策に即して述べなければ意味がない。学習指導要領が「効率」と「公正」の観点を強調するから、この観点を先行させているだけのことではないのか。

## 事例②「少子高齢社会」(単元名「社会保障制度の課題」高校)

[埼玉県立総合教育センターHPより]

この学習指導案は悪くない。まず、本時の学習目標が明確に示されている。①日本での少子化・高齢化・人口減の進展を理解すること、②その少子高齢化の原因と問題点を考察すること、この2点である。授業展開の欄も、その2つの課題の解明に向けて、適切に具体的にわかりやすく記述されている。事例①とは違って、授業の中身をかなりイメージすることができる。なお、左側に「生徒の活動」を、その右に「教師の指導・支援等」を記載しているが、これは逆にした方が読みやすい。1の⑤で私が指摘したとおりである。

この授業の山場は、「少子高齢化の原因と問題点」を生徒に考えさせるところにあるだろう。この山場の記述に、私は物足りなさを覚えて仕方ない。ワークシートに生徒の考えを書かせる、数名指名して回答を板書する、教師の回答を板書する、とあるだけである。①生徒には、どのような資料をもとに、どのような筋道で考えさせるのか、②生徒からどのような意見が出るのを想定しているのか、③教師がどのような回答を板書するのか、この3点が不明なのである。わかることは、少子高齢化の問題点の一つとして「社会保障関係費の増大」を教師が挙げていることだけである。授業の山場の最も知りたいところが霧の中。山場に限っては、この学習指導案もく中身のない手順書>と言わざるをえない。

## 事例③「融資を行ってみよう」(単元名「金融のしくみと機能」高校)

[東京都教職員研修センターHPより]

この学習指導案は非常にわかりにくい。本時の学習目標は、①金融機関が融資する際に重視する点、②私たちがローンやクレジットを利用する際の注意点、この2点であること。それぞれの答えは、①返済が見込める顧客であるか否か、②所得に対する返済比率、連帯債務者の有無、であること。ここまではわかる。わからないのは、この2点をなぜ授業でとりあげるかの説明が全くないことである。一見些末に見えなくもない問題だけに、「金融機関から融資が受けられるかどうかは、中小企業の生き残りに関わることもある」などの説明がほしい。また、①から②への転換はあまりにも唐突である。

この授業の山場は、「4人から融資をお願いされたとき、誰に融資するか」のグループ協議である。ところが、このグループ協議の手順の記述は丁寧なのに、融資対象者の4人の条件を示す資料が不在である。これでは、生徒はどのような点に着目して、どのような点で意見が分かれて、どのような議論をするのか、何も見えてこない。「返済が見込める顧客か否か」はもちろん重要な観点だが、「緊急に切実に融資を必要としているか」「事業に将来性のある顧客か否か」なども問われるだろう。どの観点を重視するかの葛藤を組織するところに、グループ協議の醍醐味があるはずである。手間暇かかるが、融資対象者4

人のプロフィール造形はこの学習指導案に不可欠な資料であると、私は思う。そして、教師が授業の中身を深く吟味していけば、①の答えが「返済が見込める顧客であるか否か」だけではないことも明らかになるだろう。残念ながら、この学習指導案も＜中身のない手順書＞に属すると判断せざるをえない。

#### 事例④「イスラームを含む唯一神の宗教の特質」（単元名「唯一神の宗教」高校）

〔東京都教職員研修センターHPより〕

この学習指導案を読むと、授業の学習項目と流れはわかるが、中身がほとんど不明と言わざるをえない。イスラームの六信・五行、イスラーム文化の広がり、イスラームの聖戦思想、ユダヤ思想・キリスト教・イスラームの共通点と相違点。これらが本時の学習項目である。ところが、その一つ一つの学習項目について、教師が中身をどのように理解していて、どういう説明をするかが全く記されていない。これでは授業の中身が把握できない。いくつか見ていこう。

①イスラームではなぜ六信・五行が尊ばれるのか、これはイスラーム理解の根源に関わる設問である。イスラームは身体を動かすばかりで、内面的な教えに乏しいと評価する人々もいるからである。教師がこの設問にどう回答するのか、これは授業を見ない限り知ることができない。

②イスラームの聖戦思想をどう理解するかも興味深い設問だが、多様に解釈されていること、宗教的寛容が見られることを指摘するのみで、正面からの回答は示されていない。どのように多様な解釈があり、教師がどの解釈に立つかは、これまた授業を見なければ知ることができない。「生徒が一方的な理解で終始することがないよう、発問を重ねて生徒の考察を促す」と授業展開の手順は述べるが、肝心の発問の言葉は不明である。「生徒の回答が出ない場合は、白紙に意見を書かせて、それを掲示することで議論を促す」などと、指導の手順だけは具体的なのに、指導の中身（学習内容）の記述は少しも具体的ではない。

③3つの一神教（ユダヤ思想、キリスト教、イスラーム）の共通点と相違点というのは、かなりハイレベルな設問である。生徒に理解させるためには、いろいろな資料も必要である。この授業のようにまとめの10分で扱うからには、教師の解説によるほかない。教師の解説の中身を知りたいところであるが、これまた何の記述もない。

全体としては、この学習指導案も＜中身のない手順書＞と言うほかない。



### 3. シナリオ形式のすすめ

前節での学習指導案に対する私の批評が手厳しすぎることは、承知している。＜中身のない手順書＞などと批判するけれど、学習指導案は研究授業や公開授業の参考資料として作成するのだから、「授業の流れと学習項目がコンパクトに示されていればよい」、「実際の授業を見てもらえば、中身はわかるはずだ」と反論されそうである。そのような反論は正当であり、全面的に認めたいと思う。

ここで私は言い訳をしなければならない。学習指導案について概観した1の①で述べたことに戻っていただきたい。学習指導案は、「自由自在に使い勝手が良いように作成すればよい」のである。研究授業や公開授業の際の学習指導案が、現状で使い勝手が良いならば、私の批判などは問題にする必要もないことになる。

実は、前節での既成の学習指導案への批判は、「学生がこのような学習指導案を真似てもらっては困る」、「このような学習指導案では授業づくりの力がつかないのではないか」という発想からのものである。あくまで教職課程の学生を意識しての学習指導案評価ということになる。

ある大学で教科教育法の授業を担当したときの経験である。そこでは80人以上の受講者があり、全員に模擬授業をやってもらふことなどできそうもない。15分でできそうなテーマを設定して、全員に学習指導案を作成させ、提出された学習指導案を私が全部見たうえで、1回当たり数人の学生に模擬授業をやってもらふという方式が精一杯であった。そのような状況で、既成の学習指導案のようなものが提出されたとしたら、私は出来栄の評価も模擬授業担当者の選択もしようがないである。＜中身のない手順書＞を見せられても、学生がどこまで勉強して、テーマの内容をどこまで深く理解して、授業を組み立てているか、これは授業をやってもらわなければ判断できそうもないのである。機転の利く要領のよい学生なら、教える内容を深く勉強していなくても、＜手順書＞だけなら作成できてしまうかもしれない。

そこで私が選択したのが、＜シナリオ形式の学習指導案＞を学生に課すことである。最初の発問、予想される回答、それに対する教師の応答から始まって、用意する資料、説明の言葉、板書内容までを、そのまま記述するというものである。これなら、学生の勉強の具合も内容理解の程度も授業づくりの構成力も一目瞭然となる。全員に模擬授業をやってもらえないなかで、学生の授業づくりの力を鍛え、私も成績評価を可能にするのは、この方式しかない判断したのである。

もちろん、学生にとっては、これはなかなか骨の折れる課題ではある。何となくわかつたつもりでも、いざ具体的に書いてみると、意外に説明が繋がらない、説得力に欠ける

ことに気づくものである。教材研究や授業準備の曖昧さを自覚させる意義もあるのではないかと考えた。

安易に＜中身のない手順書＞をいくつも作成するくらいなら、難関の＜シナリオ形式の学習指導案＞を一つ作る方が授業づくりの力をつけることになるのではないかと、私は考えている。

シナリオ形式の学習指導案は責任上私もいくつか作成しているが、紙幅の制限があるので、ここでは学生作成のものを紹介しておきたい。「脳死と臓器移植」の学習指導案（事例⑤）であるが、資料と板書の部分は割愛せざるをえない。

**事例①「よりよい〇〇区をつくるための政策」(単元名「地方自治と私たちの生活」中学校)**

[東京都教職員研修センターHPより]

(1) 本時の目標

- ・よりよい〇〇区をつくるための政策について多面的・多角的に考え、自分の意見を説明する。
- ・よりよい〇〇区をつくるために自分ができようを考へ、自分の意見を説明する。

(2) 本時の展開

時	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	<p>○前時の内容を想起し、ワークシートの記述内容を確認する。</p> <p>・よりよい〇〇区をつくるために優先する政策の上位3つを選び、説明できるようにする。</p>	<p>・スライドを使って〇〇区に興味をもたせるとともに、基本情報を確認する。</p> <p>・前時のワークシートを振り返らせ、グループ活動で説得力のある意見が言えるように指導する。</p> <p>・第1時で考へた条例案(政策案)を入れてもよいことを再度説明する。</p>	
展開	<div>よりよい〇〇区にするために、どのような政策が必要だろうか</div> <p>○本時の学習の目的と流れを理解する。</p> <p>○よりよい〇〇区にするための政策案をグループで考へ、発表する。</p> <p>・4人のグループをつくり、よりよい〇〇区をつくるために優先する政策の上位3つとその理由を発表する。</p>	<p>・スライドを使って学習の目的と流れを説明し、生徒が見通しをもって学習できるように支援する。</p> <p>・様々な側面や立場から考へ、より多くの人が幸福に暮らせる〇〇区をつくるための政策を選ぶように助言する。</p> <p>・話合いの中で、「効率」(効果的で無駄がないか)と「公正」(公平で特定の人だけが不利益になっていないか、多くの区民が納得する税金の使い方か)を意識するように指導する。</p> <p>・4人組のグループは席の近い生徒同士でつくらせる。(普通の授業と同じ形)</p>	



展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員の発表が終わったら、話し合いをして班の意見をまとめ、発表できるように準備する。</li> <li>・グループごとに意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの話し合いは、司会を指定せずに自主的に行わせる。</li> <li>・ホワイトボードに上位3つの政策案の番号を書かせて掲示することで、グループごとの意見の違いを明示する。</li> <li>・発表を聞きながら、参考になる意見があったらメモを取らせる。</li> </ul>	
まとめ	<p>○授業のまとめを記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を踏まえて、最終的な政策案上位3つを選び、その理由をワークシートに記述する。</li> </ul> <p>○単元のまとめを記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習課題「よりよい○○区をつくるにはどうすればよいのか」について5時間の授業を振り返って自分の考えをワークシートに記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容に基づいて2つ以上の根拠を理由の記述の中に入れるように指導する。</li> <li>・自分がよりよい○○区をつくるためにできることを考えるように指導する。</li> <li>・地方自治における直接民主制のしくみと自分ができることを関連付けてまとめている生徒の意見を発表させ、クラス全体で共有する。</li> </ul>	<p>イー① よりよい○○区をつくるための政策について、複数の側面や立場から多面的・多角的に考察し、自分の意見を記述できる。 (ワークシート)</p>

## 事例②「少子高齢社会」（単元名「社会保障制度の課題」高校）

〔埼玉県立総合教育センターHPより〕

### （１）ねらい

- ・日本では少子化と高齢化が進み、人口減社会に突入していることを理解させる。
- ・少子高齢化の原因と問題点について自分の考えを表現するとともに、社会保障の問題は、国の在り方（形）そのものを問う問題であることを理解させる。

### （２）展開

時間	生徒の活動	教師の指導・支援等	資料等
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート①に取り組む</li> <li>・発問に答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「少子高齢化」と聞いてイメージすること、知っているキーワードをワークシートに書くよう指示する。</li> <li>・数名指名し、回答を板書していく。</li> </ul>	ワークシート、プリントを配布する。
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントに記入する</li> <li>・資料集 p 240 のグラフを見て、2017年の合計特殊出生率と出生数を確認する。</li> <li>・プリントに記入する。</li> <li>・プリントに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化について「合計特殊出生率」の定義を板書する。</li> <li>・プリントのグラフの見方について説明し、2017年の日本の合計特殊出生率と出生数を資料集で確認させる。</li> <li>・高齢化の定義について板書する。日本は総人口に占める65歳以上の割合が21%を超え、超高齢社会に突入していることを確認する。</li> <li>・プリントの人口ピラミッドの図中に線を引かせ、65歳以上の数が増えていることを視覚的に理解させる。</li> </ul>	資料集 p 240
25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート②に取り組む。少子高齢化の原因について考える。</li> <li>・プリントの＜講義ノート＞に記入する。</li> <li>・資料集 p 239 で日本の男女の平均寿命を調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢社会の原因について考えさせ、ワークシートに自分の考えを書かせる。</li> <li>・数名指名し、回答を板書していく。</li> <li>・少子高齢社会の原因、要因について板書する。平均寿命については、資料集 p 239 で確認させる。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート③に取り組む。少子高齢社会において起こり得る問題点を考える。</li> <li>・プリントの＜講義ノート＞に記入する。</li> <li>・資料集 p 250 のグラフで、社会保障給付費と社会保険料収入の差額の大きさを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢社会の問題点について考えさせ、ワークシートに自分の考えを書かせる。</li> <li>・数名指名し、回答を板書していく。</li> <li>・少子高齢社会の問題点について板書する。とりわけ、「社会保障関係費の増大」が、国家予算に大きな影響を与えていることを説明する。</li> <li>・資料集 p 250 ①「社会保障給付費と社会保険料収入の推移」のグラフで、このままでは持続可能性が無いことを説明する。</li> </ul>	資料集 p 250
5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化の原因と問題点について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめとして、少子高齢化が起きた原因と問題点について概説し、次時の予告として社会保険制度を取り上げることを説明する。</li> </ul>	

### 事例③「融資を行ってみよう」(単元名「金融のしくみと機能」高校)

[東京都教職員研修センターHPより]

#### (1) 本時の目標

- ・金融機関が融資する際にどのような点を重視するか、考察し、グループの意見をまとめる。
- ・ローンやクレジットを利用する際の着目点に関する知識を身に付ける。

#### (2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認</li> <li>・既習事項を復習する。</li> <li>・バブル崩壊後、金融機関が貸し渋りを行ったことが社会問題となったことをつかむ。</li> <li>・本時のねらいを把握する。</li> </ul> <div>融資の業務を行う際の注意点を考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預金と融資、利子の関係について、生徒に発言させる。</li> <li>・貸し渋りに関するグラフを提示し、貸し渋りの概要を端的に説明する。</li> </ul>	
展開 35分	<div>あなたは(株)若葉銀行の融資課に勤務する銀行員だったとします。あなたは次の4人から融資をお願いされたとき、誰に融資できますか。その可否を考えましょう。また、融資の優先順位や融資を受ける際の着目点を考えてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を考える。</li> <li>・グループ(1班3,4名,計4グループ)に分かれ、グループ毎に机をまとめ、意見をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配布する。</li> <li>・他の人と相談せず、自分の意見をワークシートに記入するよう、指示する。</li> <li>・グループ協議の手順を説明し、手順に沿って話し合うよう、指示を出す。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. それぞれのグループで順番を決める。</li> <li>2. 一人一人の優先順位や理由を発表する。</li> </ol>	<p>イー①融資する際に考察する点を多面的・多角的に捉え、説明できる。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループ協議の結果、金融機関が融資する際のポイント、顧客としてローンを受ける際の着目点を発表する。</li> <li>バブル崩壊後に金融機関を取り巻く問題が起こった背景とその対策、ローンやクレジットを利用する際の着目点をつかむ。</li> </ul>	<p>3. グループ毎に意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>机間指導を行う。</li> <li>発言内容を板書する。</li> <li>以下の点を説明する。</li> </ul> <p>1 提示した銀行が株式会社であることを再提示し、返済が見込めない顧客には融資できないこと。</p> <p>2 自分であればローンを受ける際には所得に対する返済比率、連帯債務者の有無といったことに着目すること。</p> <p>3 バブル期には積極融資を行ったこと、その結果、不良債権が発生したため、貸し渋りが発生したこと。</p>	<p>エー②ローンやクレジットを利用する際に着目する点に関する知識を身に付けている。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>
まとめ 8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を振り返り、プリントに所謂、「貸し渋り」が多発した原因や本時の感想等を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸し渋りが多発した原因について、授業を振り返り、ワークシートに記入するよう、指示する。</li> </ul>	

#### 事例④「イスラームを含む唯一神の宗教の特質」(単元名「唯一神の宗教」高校)

[東京都教職員研修センターHPより]

##### (1) 本時の目標

- ・イスラームを含む唯一神の宗教について理解を深め、その課題について、主体的に考察する。

##### (2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回までの授業の復習と確認 前回はイスラームについて学んだことを確認する。</li> <li>・本時の目標を把握する。 今回は前回に引き続き、イスラームについて学習することを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配布する。</li> <li>・前回の授業は直前に終わっているため、この時点で復習に時間を掛けないように留意する。</li> </ul>	
展開 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ムスリムの宗教生活について学習する。 教科書49ページから50ページまでの記述を基に、ムスリムの生活について、特に「六信」「五行」と呼ばれている事柄を中心として、具体的な事例を通じて理解を深める。</li> </ul> <p>【具体的な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発問に答える</li> <li>・授業者が大きな紙に「六信」「五行」の各項目を書いておいたものを分類して黒板に貼る</li> <li>・なぜイスラームでは「六信」「五行」が尊ばれるのか考察する</li> <li>・上記の学習を通じて、①イスラームならではの特徴があること、②地理や当時の社会の影響が反映されているものと考えられること、③イスラームではユダヤ思想やキリスト教の存在が前提とされていること、④宗教的寛容が見受けられることを見付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「六信」と「五行」が何かを暗記させるのではなく、その意味について理解を深めることに主眼を置いて授業を進行するよう努める。</li> <li>・生徒の作業が円滑に進むよう、机間指導を行い、個々の生徒へ支援する。また、生徒同士の会話を促し、授業の中に取り入れるように配慮する。</li> <li>・決して一つの正答を定めようとするものではないことに留意する。</li> </ul>	



展開 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラーム文化の広がりについて学習する。</li> </ul> <p>【具体的な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラーム文化が世界各地に広まったことを史実として学習する。</li> <li>・その拡大の一要素として、聖戦（ジハード）思想が見いだされることを学習する</li> <li>・聖戦（ジハード）思想をどのように理解するべきかをイスラームに見られる宗教的寛容と矛盾するかしないのかを含めて、考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラーム文化の広がりにおいて、古代ギリシアの哲学の研究，継承がなされたことについて触れ，以前に扱った単元と今回の授業とのつながりを示すよう，留意する。</li> <li>・聖戦（ジハード）思想については，イスラームにおいても多様に解釈されていること，宗教的寛容が見られることについて指摘し，生徒が一方的な理解で終始することがないように，発問を重ねて生徒の考察を促す。</li> <li>・生徒の回答が出ない場合は，ワークシートとは別に白紙を配布して，それに自分の考えや疑問，意見を書くよう指導して，生徒が自身の考えを書いた紙を掲示することで，議論を促す。</li> </ul>	<p>イー② 唯一神の宗教に関する学習を通して，人間としての在り方生き方について，主体的かつ公正に判断し，適切に表現している。</p> <p>（ワークシート）</p>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の単元について振り返る。</li> </ul> <p>【具体的な学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユダヤ思想とキリスト教とイスラームにはそれぞれ共通点と相違点があることを確認する。</li> <li>・上記の宗教には相違点について融和を目指す姿勢と衝突を辞さない姿勢が見受けられることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記の学習内容はこの単元の復習として振り返る。その上で，この国際社会において，左記に示される姿勢の相違を知識として知る必要があることを，政治や経済の事例やニュースなどを通じて指摘するとともに，そのような相違にわたしたちがどのように臨むべきか，生徒に自分の問題として考えさせるよう，留意する。</li> </ul>	<p>イー② 唯一神の宗教に関する学習を通して，人間としての在り方生き方について，主体的かつ公正に判断し，適切に表現している。</p> <p>（ワークシート）</p>

## 事例⑤「脳死と臓器移植」

### 授業案テーマ：科学技術の発達と生命～脳死と臓器移植～

#### 本時の学習の目標

- ①脳死と臓器移植を通して、科学技術の発達にともなって生じる倫理的問題について関心を持つ。
- ②科学技術の発達によって、さまざまな可能性がひらける一方で、人々の生や死のあり方に大きな影響を及ぼす可能性があることを理解する。
- ③生命倫理に関するさまざまな問題や、立場による意見の違いを知ったうえで自分なりの意見を持てるようにする。

#### 〔導入5分〕

**発問①** 今日は「科学技術の発達と生命」について授業をします。はじめにひとつ質問をしたいと思います。

人には遅かれ早かれ死が訪れます。では、みなさんは生命の終わりはどこだと思えますか。心臓が止まったときでしょうか。それとも、呼吸が止まったときでしょうか。はたまた、命に終わりはない、命は永遠であると考えますか。1分ほど考えてみてください。（1分後・・・）1分経ちました。皆さんの意見を少し聞いてみたいと思います。（数人に意見を聞く）

**〔想定する回答〕** 心臓が止まったとき、息が止まったとき…

ありがとうございます。では、正解を発表します。正解は…ありません。実はこの問いに正解はないのです。人間の死の厳密な定義にはさまざまな議論があつて、文化や法制度によっても違いがあります。だから、ひとつの答えはありません。そのかわり、何をもって人の死とみなすかというルールや基準が定められています。

旧来からある判定基準のひとつに「三徴候の死」というものがあります。（板書：三徴候の死）

**資料①**を見てください。この判定基準では、脳機能の停止を意味する瞳孔散大と対光反射の消失（板書：脳機能）、呼吸の停止（板書：呼吸）、心臓の停止（板書：心臓）をもって死の判定を行います。これは実際の医療現場でも用いられています。

医療ドラマで、医師が「〇時〇分、ご臨終です」という前に、ペンライトを目に当てているのを見たことあるかもしれません。

あれは、脳が正常に機能していればライトに反応して瞳孔が小さくなるという対光反射があるか診ている場面です。この判定基準は長く使用されていますが、科学技術が発

達した結果、「三徴候の死」とは異なる「死」の考え方が生じました。それが今日の授業の核となる「脳死」です。

### 〔展開45分〕

**発問②** 「脳死」という言葉を聞いたことある人はどれくらいいますか？（挙手してもらう）

〔想定〕 ある程度の人は聞いたことがある

（挙手状況を見て適切なコメント 例「結構知っている人いますね」）

**発問③** では、「脳死」がどういう状態なのか説明できる人はいますか？（挙手してもらう）

〔想定〕 おそらく手は挙がらない

説明までは難しいですよ。資料②を見てください。脳は呼吸や運動の調節というような、生命を維持するうえでとても重要な役割を担っています。「脳死」というのは、事故や脳の病気などによる脳の損傷が原因で、呼吸・循環機能の調節や意識の伝達など、生きていくために必要な働きをつかさどる脳幹を含む、脳全体の機能が失われた状態のことを指します。

この「脳死」ですが、実はある医療器具があつてこそ生じ得る状態なのです。その医療器具とは人工呼吸器です。人工呼吸器がなかったころは、呼吸や運動をつかさどる脳の機能が喪失すれば、呼吸や心臓も停止することを免れませんでした。つまり、三徴候の死です。しかし、人工呼吸器ができてからは、脳の機能が喪失していても人工呼吸器をつけることで数日のあいだではあるけれども、呼吸や心臓の働きを維持することが可能になりました。（板書：人工呼吸器で維持可能）この、脳機能だけが停止（板書：脳機能だけが停止）している状態を脳死（板書：脳死）といいます。

**発問④** ちなみに、脳死と混同しやすいものに〇〇状態というものがあるのですが、わかる人いますか？（数人あてる）

そう、植物状態です。よく知っていましたね。では、脳死と植物状態は何が違うと思いますか。資料③は脳死と植物状態の脳の状態です。この図を見て、脳死と植物状態の何が違うのか考えてみてください。（数人あてる）

〔想定する回答〕 植物状態は脳の機能だけが消失しているのに対し、脳死はすべての脳の機能が消失している…

そうですね。ということはどういうことでしょうか。ヒントは、植物状態には残っている脳幹、その機能は何だったか思い出してみてください。脳幹の機能が残っていると

いうことは…？（再びあてる）

〔想定する国答〕呼吸ができる…

そうです。植物状態の場合は生命維持に必要な脳幹の機能が残っているため、自発呼吸ができることが多く、回復することもあります。一方、脳死の場合は、すべての脳の機能が消失していて、二度と元に戻ることはありません。ですから、脳死と植物状態は自分で生きる機能が残っているかいないかという点で別物なのです。ただ、脳死の場合も心臓はまだ動いていて、血色もよく、爪やひげが伸びることもあります。

さて、脳死の話に戻ります。脳死の状態になると回復することはありません。これは先ほど説明した通りです。では脳死の状態になったら、その人や家族は心臓と呼吸が停止するのを待つ以外にできることはないのでしょうか。残された時間を大切に過ごしたり、家族みんなで最期までケアしたり、さまざまな選択があるなかで、ひとつの選択肢として、臓器提供があります。

資料④を見てください。日本では1997年に臓器移植法が制定され、本人が15歳以上で、本人の書面による同意と家族の同意があれば、資料⑤の手順で脳死判定が行われ、脳死後の心臓、肺、肝臓、腎臓、膵臓、小腸などの提供が可能になりました。その後2009年に改正され、本人の意思が不明の場合は家族の同意があれば、年齢に関わらず脳死判定を経て、臓器提供が可能になりました。これによって、難病に苦しむ患者に対する治療は少しずつ進歩を遂げました。

しかし、脳死後の臓器提供が可能になるということは、本来の死の時期を前倒しすることと背中合わせにありました。

たとえば脳死状態のAさんがいるとします。Aさんは臓器提供に関する意思表示をしていませんでした。そうすると、家族が臓器提供をするかしないかの決断をすることになります。（板書：図①）黒板を見てください。臓器提供をしなければ、図の a の時点で心停止となりAさんは死亡となります。しかし、臓器提供をするとすると、本来 a までであるAさんの寿命を、臓器提供のための脳死判定によって b まで縮めてしまうこととなります。家族は、まだ血色もよくてあたたかく、爪が伸びたりするAさんを前に大きな決断を迫られます。このとき、人の死の時期を人為的に決めていいのかという問題が発生します。

また、移植後のことを考えると元気な臓器の方が望ましいため、臓器移植を急ぐあまり十分な救命治療が行われない可能性もあります。

このように、一見、科学技術の進歩によって多くの命を救うことに希望が見えてきた裏には、人々の生や死に関わるさまざまな問題が山積みになっています。こういった問題を考えていくうえで必要になるのが、いろいろな立場にたって物事を考えることができる力だと思います。少し練習してみましょう。

**発問⑤** では、ここから右半分の人たちはA、ここから左半分の人たちはBの立場にたって考えてみてください。まず、Aの立場の人たち。みなさんの子どもは、交通事故で脳死状態になってしまいました。子どもは臓器提供を希望する意思表示をしていました。あとは家族次第で臓器提供するかしないかが決まります。

次に、Bの立場の人たち。みなさんの子どもは、重い心臓病を抱えていて、早く臓器提供を受けないと命に危機が迫っています。

さてそれぞれの立場から、臓器移植に対する意見であったり、気持ちであったりなんでもいいです。その立場の人になりきって考えてください。少ししたら発表してもらいます。

**【想定】** 立場によっても人によってもさまざまな回答が出る。

ありがとうございました。みなさんよくそれぞれの立場になりきって考えられていたと思います。立場によっても人によっても違った回答が出ましたね。もう少し意見を聞いてみたいところですが、そろそろ時間です。

### **【まとめ5分】**

まとめのかわり、最後に宿題を出したいと思います。先ほどAとBの立場からさまざまな意見を出してもらいました。そのなかで考えたことであったり、他の人の意見を聞いたりしたうえで、あなた自身は臓器移植にどんな意見を持ちますか。また、人の死の時期を人為的に決めることについてどう思いますか。あとは、今日の授業を受けての感想を書いてきてください。今日はここまでで終わります。